

日本災害情報学会20周年記念シンポジウム

防災における “住民の主体性”

2019
5/11 SAT

東京大学 福武ホール
ラーニングシアター

14:00-17:00(13:00開場)

定員:184名 参加申込不要・参加料無料



2018年12月に中央防災会議(防災対策実行会議 平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ)によって、「これまでの『行政主導の取組を改善することにより防災対策を強化する』という方向性を根本的に見直し、住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援する」という方向性が示された。つまり、防災における“住民の主体性”の重要性がここであらためて強調されるに至ったわけである。

ところで、日本災害情報学会の設立時である約20年前を振り返ってみると、このような議論は本学会内においては既に活発に行われていた。すなわち、日本災害情報学会の20周年を迎えるにあたり、中央防災会議にてこの議論を再確認するかの如く強調せねばならないこの現状をどう受け止めるべきなのかについて、我々国民・学会員・行政・マスコミ関係者などのそれぞれの立場から、自戒を込めてあらためて真摯に考えてみる必要があるのではないだろうか。やっとここまで来たのか、それとも、何も変わっていないのか。少なくとも言えるのは、次の40周年を迎えるときには、今と同じ議論の繰り返しではなく、次のステージへと議論を進展させていなければならないということだ。この20年で何か成し遂げられ、次の20年で何を解決すべきなのか。本シンポジウムが、防災における“住民の主体性”とは何かについてあらためて思いを巡らせる機会となれば幸いである。

お問い合わせ

日本災害
情報学会

TEL:03-3268-2400 E-mail:tokio@jasdis.gr.jp
東京都新宿区神楽坂2-12-1-205((一社)減災・復興支援機構内)

主
催

日本災害
情報学会

PRESENTER



本間 基寛
(一財)日本気象協会



鈴江 奈々
日本テレビ放送網(株)
アナウンサー



飯田 和樹
フリージャーナリスト
(元毎日新聞記者)



城下 英行
関西大学
社会安全学部 准教授



井若 和久
徳島大学
地域創生センター
学術研究員



佐藤 翔輔
東北大学
災害科学国際研究所
准教授



及川 康
東洋大学 理工学部 教授

SCHEDULE

西日本豪雨災害調査団 中間報告会

13:30-14:00

開会挨拶

田中 淳／日本災害情報学会 会長、東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 教授

14:00-14:05

趣旨説明

及川 康／東洋大学 理工学部 教授

14:05-14:15

第一部

基調講演

主体的な防災における「不確実な」気象情報の役割

14:15-16:15

本間 基寛／(一財)日本気象協会

行政と住民のリスクコミュニケーション—メディアの役割と課題—

鈴江 奈々／日本テレビ放送網(株) アナウンサー

新聞社をやめてから考えた2、3のこと

飯田 和樹／フリージャーナリスト(元毎日新聞記者)

主体的な防災の取り組みのための防災教育

城下 英行／関西大学 社会安全学部 准教授

現場から考える住民主体の地域防災の過去・現在・未来

井若 和久／徳島大学 地域創生センター 学術研究員

防災における住民の主体性を「311前後の東北」で考える

佐藤 翔輔／東北大学 災害科学国際研究所 准教授

第二部

パネル

ディスカッション

コーディネーター: 及川 康／東洋大学 理工学部 教授

16:15-16:55

パネリスト: 第一部の登壇者

閉会挨拶

中村 功／日本災害情報学会 企画委員会 委員長、東洋大学 社会学部 教授

16:55-17:00